

2009年度 関西学院大学先端社会研究所シンポジウム

戦争が生み出す社会 PARTII

『見えない敵』への恐れと排除

シンポジウム趣旨

2001年9月11日を契機として、いたるところで声高に叫ばれるようになった「テロとの戦争(War on Terror)」。それは「見えない敵」との常なる戦いを強いるものにほかならない。ポスト9.11の社会に暮らす人びとは、これまでのような国家と国家の交戦状態とは異なる「新たな戦争」を、まるで日常の一部として抱え込んでしまったようにすら思われる。

感覚的にイメージされる敵の姿は、なにも凶悪な政治テロリストにかぎらない。より身近な日常生活のなかに蠢く「見えない敵」の姿に対しても人びとは脅威の念をいだき、なんととしてもその存在を排除／抹消しようと躍起になっている。

だが、私たちに脅威を与えるテロリストとは、いったい誰なのか？彼ら／彼女らは、そもそもどこからやって来るのだろうか？平穏な日常生活を脅かす凶悪犯は、どこに潜んでいるというのだろうか？人びとが「見えない敵」について語る時、不思議なまでに、その恐ろしい／排除したい敵＝他者の姿は実体としては曖昧なのだ。

本シンポジウムでは、「9.11」以後の世界と日本の社会・文化的な変化を念頭に置きながら、日常化された「戦争状態」が「だれとの」あいだで「なにを賭けて」生きられているのかを、戦争と社会をめぐるこれまでの歴史を見据えながら議論する機会を持ちたい。

現代社会を覆い尽くすかのようにすら思える「見えない敵」について、異なる世代に属する論客が語り合うことを通じて、戦争と社会との今日的な関係の特質を浮かび上がらせることを目指す。

プログラム

- 13:00-13:15 司会挨拶／先端研所長メッセージ
- 13:15-14:15 基調講演
森達也(映画監督／ドキュメンタリー作家)
「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」
- 14:15-14:30 休憩
- 14:30-15:00 基調講演へのコメント
鈴木謙介(関西学院大学社会学部助教)
原口剛(日本学術振興会特別研究員／大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員)
- 15:00-16:00 パネルディスカッション
フロアとの質疑応答

登壇者紹介

基調講演

森 達也 (もり・たつや)

映画監督／ドキュメンタリー作家。映画監督としてはオウム真理教を扱ったドキュメンタリー映画『A』(1998年)などで、内外より高い評価を受ける。また作家としては『放送禁止歌』『「A」マスコミが報道しなかったオウムの素顔』『世界が完全に思考停止する前に』『戦争の世紀を超えて』(姜尚中との共著)、『ドキュメンタリーは嘘をつく』『死刑』『神さまってなに?』など多数の著作がある。

コメンテーター

鈴木 謙介 (すずき・けんすけ)

関西学院大学社会学部助教。専攻は理論社会学。インターネット社会の最先端の事例と、政治哲学の理論的研究を架橋させながら、独自の情報社会論を展開している。著書に『暴走するインターネット』『カーニヴァル化する社会』『<反転>するグローバル化』『ウェブ社会の思想—<偏在する私>をどう生きるか』『サブカル・ニッポンの新自由主義—既得権批判が若者を追い込む』など。

原口 剛 (はらぐち・たけし)

日本学術振興会特別研究員(PD・神戸大学)、大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員。都市社会地理学の視点から、寄せ場・釜ヶ崎の戦後史を解明すると共に、野宿生活者に対する社会・空間的排除の実態と抵抗の論理を追究している。論文に『「寄せ場」の生産過程における場所の構築と制度的実践——大阪・釜ヶ崎を事例として』(『人文地理』55(2)、2003年)、著書に『都市空間の地理学』(共著)、『創造都市と社会包摂』(共著)など。

司会

阿部 潔 (あべ・きよし)

関西学院大学社会学部教授。専攻・メディア／コミュニケーション論。批判的社会理論の系譜を踏まえながら「公共圏とメディア」という視座から現代社会の問題点を考察している。近年は「ナショナルなもの」に潜む問題点を研究している。

会場への経路

関西学院大学上ヶ原キャンパス正門を入ると正面に見える時計台を目指して下さい。時計台の建物の中に図書館及び図書館ホールがあります。

↓↓上ヶ原キャンパスへのアクセスはこちら↓↓

http://www.kwansei.ac.jp/Contents_3334_0_10_0_18.html

●お問い合わせ先● 関西学院大学先端社会研究所
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL:0798-54-6085 FAX:0798-54-6089 E-mail:asr@kwansei.ac.jp